

2024年度 第34回こうさい療育・支援セミナー 実践報告①

# 日中活動で得た安心感や楽しさを その先の自信につなぐ

総合福祉センター 弘済学園 療育支援課  
係 長 瀬古真紀  
福祉指導員 味埜美穂

# はじめに・・・

近年、発達に気がかりのあるお子さんの地域サービスは充実してきている。一方で、それらのサービス等を利用しない時間はご家庭での過ごしが中心となる。お子さんによっては、活発に動きまわり、快不快を発信し、ご家族はうれしく思う反面、疲れたな、どうしたらよいのだろうと困惑することがあると感じる。

今回の事例は3歳で児童入所施設に入所となったAさん。  
愛情いっぱい育てられているが、入所前のご家庭では、一日中動き回り、理由のわからない泣きや自傷が見られ、睡眠はまとまらず、ご両親は苦慮されていた。

Aさんが24時間継続した療育の日中活動の中で、職員との関わりやプログラムから、安心感や快刺激、楽しさを得て心身ともに成長した2年半を報告する。  
さらに、この事例を通して、どのようにこどもの「出来た!」「やりたい!」を広げていくべきかを考える。

# Aさんについて

## 【プロフィール】

- ▶ 現在6歳5か月 男児
- ▶ 2022年4月に入園（当時3歳7か月）
- ▶ 重度知的障害、自閉スペクトラム症  
睡眠障害を持つ
- ▶ 家族構成は 父、母、本人の3人家族

## 【生育歴】

- ▶ 出生時は在胎38週
- ▶ 発語はなし
- ▶ 2歳前に両親が発達の遅れを心配し、  
地域の療育施設に通園し始めた

# Aさんについて

## 【弘済学園に入所に至るまでのご家庭での困り感】

### ▶ 夜にまとまった睡眠がとれない

… 4時間眠って3時間起きるサイクル

2021年10月からリスパダール(就床の分1)とロゼレム(夜間の目覚め時に分1)を服用

### ▶ 原因のよくわからない泣き

… 毎日トータルで2時間ほど泣き、その間に自傷が見られた

### ▶ 多動さや高所登り、外出先での座り込みなど

… 母のみでは外出が難しく、本人を外に連れ出せるのは父の仕事が休みの日のみ

こうした経緯からご家庭でのケアが難しくなり、当園の入所につながる

## 方法

入園から現在に至る、日々の支援記録や実践を整理し、  
本人の成長過程と共に、得られた支援のポイントをまとめた。

## 3年間の支援経過

	2022年度	2023年度	2024年度
日中活動の稼働日数	136日	182日	概ねコロナ禍以前と同じペース 220日
担任数	1名	1名	2名
クラスメンバー	8名 学齢児:6名 未就学児:2名	9名 学齢児:5名 未就学児:4名	10名 学齢児:2名 未就学児:8名
特記	*現在の担任は、生活クラスの場面でAさんと関わりあり	*10月休み明けより、サポートの職員がクラスに入る	

# 3年間の支援経過

## 入園1年目(2022年度)

全面受容の姿勢で人や場所への安心感、信頼関係を作る

Aさんの様子	自由に動き回り、人への意識はない 混乱や反発から泣くことが多い 眠気からグズグズしやすい
支援	全面受容の姿勢を基本 担任と一緒に楽しくプログラムに参加する 活動の見通しを持つ
結果	プールや体育などの好きなプログラムは自発的な動きが出る 日々の繰り返しにより見通しはある程度持てた 好きなフリータイム等の終わりは受け止めにくい 歩行では遊具で遊びたく座り込み、パターン化

コロナ禍だったため、日中活動の稼働日が少なく、繰り返しの積み重ねは難しく、安定しづらい状態だったと考えられる

# 3年間の支援経過

入園2年目(2023年度)

着席を求め、プログラムに気持ちを向けて参加する

支援	着席(待機)をすることで、周囲へ意識を向ける 歩行のイメージをプラスに変える トイレトレーニングを導入
結果	着席により担任やグループ、プログラムに意識が向く 担任を頼りながら取り組み、受け止められる幅が広がる  歩行は、環境を整えることで、楽しく参加  トイレ排尿が定着し布パンツにトライするが、状態が低下し紙パンツに戻す

# 3年間の支援経過

## 入園3年目(2024年度)

### 担任を軸に経験を重ね、意欲を育んでいく

支援	慣れた担任と、経験の幅を広げる 新しく出会う職員と、関わる人の幅を広げる
結果	イレギュラーな経験などは、慣れた担任と一緒にであれば安定して取り組む 教材に一人で向かい試行錯誤し、うまくいかないと担任にヘルプを求める お茶片付けをやりたい気持ちから、自ら動きが出る 新しい担任との関係作りは、本人の好きなプールの場面から始め、安心して取り組めるようになる しかし、関係性が出来るまでの負担感があり、慣れない職員とその場は取り組めるが、時間差で慣れた職員に噛みつき等が表出

Aさんへの支援をもとに、  
年少児の「出来た!」「やりたい!」を  
引き出すために必要と考えること

Aさんへの支援をもとに、  
年少児の「出来た!」「やりたい!」を引き出すために必要と考えること

【これまでの支援から見えてきたこと】

- ① 構造化・見通しによって、安心して生活できる環境を提供する
- ② 分かって動ける姿から、気持ちを育て、意欲や自信につなげていく
- ③ 自己主張と、折り合い・受け止め
- ④ あたためる時期から、一歩踏み出す力へ
- ⑤ トイレの自立がもたらす気持ちの育ち
- ⑥ 集団意識から生まれる社会性

- ① 構造化・見通しによって、  
安心して生活できる環境を提供する

# ① 構造化・見通しにより、 安心して生活できる環境を提供する

【Aさんの場合】

- 構造化による見通し

活動の時間 (9:20~11:45、13:30~16:15)

場所 (基礎1クラス教室、音感室、体育館、園周、着席の位置、待機場所等)

内容・順番 (室内日課、音感、体育、歩行などのプログラムの内容や、プログラム中の取り組み順)

人 (担任制)

これらを固定し、月曜から金曜まで(祝日も含む5日間)繰り返し積み重ねる。

わかることで、見通しを持ち、安心して参加。

- 生理的三原則(睡眠)の安定

体育や歩行などで体を十分に動かし、よく食べ、よい排せつにすることで、睡眠が安定

頓服薬は使用せずに  
睡眠状況を確認

運動量を確保することで  
安定的な睡眠に

午睡を取り入れて  
一日を通して元気に活動

# ① 構造化・見通しにより、 安心して生活できる環境を提供する

## 【Aさんの場合】

- 安心できる人との関係作り

- 人に安心感を持てる快刺激となる関わり

- 1年目は人への意識が薄く、「我的世界」

- 2年目の5月休み明け頃に担任への意識が芽生える

- ➔ 担任との関わりから人の心地よさを十分に経験する

- 担任と一緒に取り組む

- ➔ 楽しい、嬉しいといった、ポジティブな感情を担任と共感する

- 気持ちのしんどさから見られる課題行動（噛みつき）

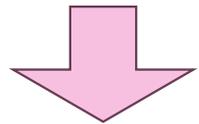
- 気持ちに寄り添い、声掛けやスキンシップで気持ちの切り替えを図る

- ➔ しんどい気持ちを担任が受け止め、不安や不快といったネガティブな感情と一緒に乗り越える

# ① 構造化・見通しにより、 安心して生活できる環境を提供する

【出来た!やりたい!を引き出すために】

- 環境を整え、今の状況、次に行うことの理解につなげ、「分からない」不安を取り除く
- 生理的三原則を整え、体のコンディションを快の状態にする
- 職員との関係性を丁寧に構築して、安心してできることで気持ちの安定を目指す



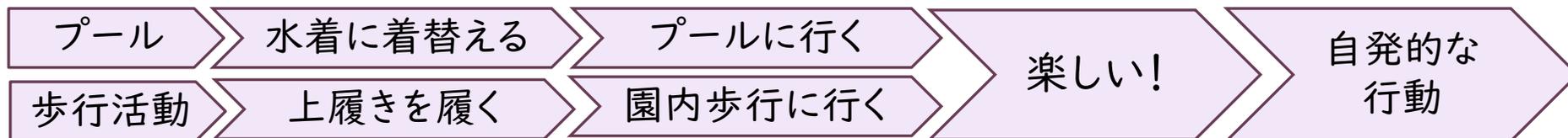
安心感を持てる生活環境・関係性が  
人としての土台となり  
意欲的な行動につながる第一歩となる

② 分かって動ける姿から、気持ちを育て、  
意欲や自信につなげていく

## ② 分かって動ける姿から、気持ちを育て、意欲や自信につなげていく

### 【Aさんの場合】

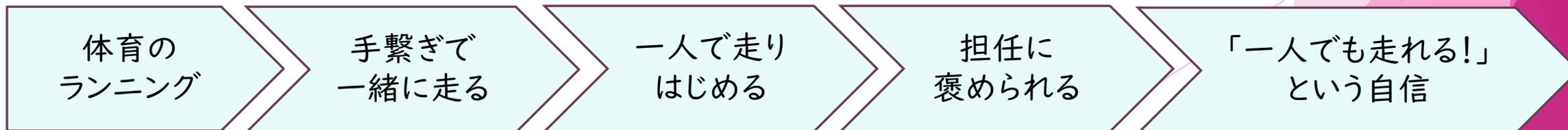
- プログラムの内容が「分かる」ことで動ける姿



- 「出来た!」から「やりたい気持ち」が生まれる姿



- 担任と一緒に取り組みから一人の取り組みへ



## ② 分かって動ける姿から、気持ちを育て、 意欲や自信につなげていく

【出来た!やりたい!を引き出すために】

- 毎日の同じ流れの活動の繰り返しが、見通し・理解・楽しさにつながる  
自分でやってみようという積極的な姿が増える
- 出来たことを「喜び」、「褒め」、「嬉しさ」を担任と共有・共感する  
「出来た」という達成感や、「これなら出来る」という自信につながる



成功経験を積み重ねとなり、その人の生きる力が育っていく  
この生きる力の強さが、イレギュラーを乗り越える力にもなる

### ③ 自己主張と、折り合い・受け止め

### ③ 自己主張と、折り合い・受け止め

【Aさんの場合】

- 一方的な行動が担任の関りから、意思表示や自ら行動する姿の増加へ  
(フリータイムの過ごし)

欲しいものを  
勝手に取る

欲しいものがあるとき  
にジェスチャーが出る

気持ちが  
伝わる体験

伝えたい  
伝えよう

「ください」の  
サインを手添  
えて示す

欲しいもの  
を渡す

### ③ 自己主張と、折り合い・受け止め

【Aさんの場合】

- プールやフリータイムの終われなさに折り合いをつける
  - ・ 今していることを「もっとやりたい」

終わりがたくない

気持ちを  
切り替える

次の活動場所へ向かう  
待機する  
次の活動を行う  
等により

「終わり」の ラインを明確にする

気持ちが  
切り替えられる  
アイテムを  
渡す

### ③ 自己主張と、折り合い・受け止め

【出来た!やりたい!を引き出すために】

自己主張「したい、ほしい、いやだ、もっと等」

- 受け入れられる経験を重ねる

- ・ 「伝える」という表出につながる
- ・ 気持ちが満たされる

- 折り合うことや、受け止める経験を重ねる

- ・ 次にまたあることを繰り返し示し、理解につなげる
- ・ 許容できないことは、明確に「だめ」を伝える

→ 担任との信頼関係の中で折り合える姿・受け止められる姿につながる

④ あたためる時期から、一步踏み出すカへ

## ④ あたためる時期から、一步踏み出すカへ

### 【Aさんの場合】

- 室内日課 ・ 落とし教材の量を増やしてステップアップ、輪通し教材にトライ  
→ 集中して取り組む、色や形、やりやすさを意識する姿  
「もっとやりたい」気持ちが見られる  
担任に手は出してほしくないが、傍に居て欲しい(隣に座ってという動作)
- 役割活動 ・ 「担任との個別の楽しみ」が積み重ねにより「自分の役割」となる
  - ・ 持ち方や置き方、少し休憩を入れながらも試行錯誤しながら取り組む
  - ・ 役割前の状態に不安定さがあっても、取り組むことで切り替わるようになる

### \* どちらの場面も積極的な姿

一人でやりたい気持ち(担任は傍で見守り、一人でうまく出来ないと助けを求める)

→ 一人でやり切った時も、担任と一緒に取り組んだ時も、最後はいつも「出来たよ!」の得意げな表情



## ④ あたためる時期から、一歩踏み出すカへ

### 【Aさんの場合】

- トイレトレーニングは一進一退を繰り返しながら積み重ね
  - 貯める機能が育ち、繰り返しの動き（定時排尿）により「トイレに入る→座位排尿」が積み重なる
    - 時間、場所を決め部分的に布パンツにトライ、成功経験の積み重ね
  
- 一方で
  - 疲れてくると布パンツを嫌がり、紙パンツを求める
    - 本人の状態により、紙パンツを併用し気持ちの持ち直しを図る
    - 布パンツで「もう少し頑張ってみよう」と一歩踏み出すタイミングは今後の課題であり、現在の検討事項

## ④ あたためる時期から、一步踏み出すカへ

【出来た!やりたい!を引き出すために】

あたため ⇒ 一緒に取り組んで「出来る」を積み重ねる  
一人でやりたい、試行錯誤する姿 ⇒ トライアンドエラーを支える

\* 利用者の「一人でやりたい」気持ち

自立心の表れ

➡ 次の一步に踏み出すための重要なポイント

どこまで出来る? 手助けは必要? 本人はそれを求めているの?

➡ 一人ひとりに合わせての一進一退

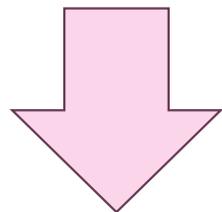
⇒ 「自分で出来た!」という体験は、大きな自信であり  
次の意欲につながる

## ⑤ トイレの自立がもたらす気持ちの育ち

## ⑤ トイレの自立がもたらす気持ちの育ち

【Aさんの場合】

- トイレで排尿に成功 → 褒めると飛び跳ねて喜ぶ
- 布パンツへのトライ  
体育のランニングを一人で走り始める  
移動や歩行の手繋ぎで担任やお友達をリードし始める



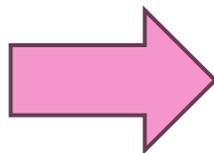
紙パンツから布パンツへの変化は、Aさんにとっても分かりやすい変化  
気持ちが上向きになるきっかけとなり、意欲的な姿に

## ⑤ トイレの自立がもたらす気持ちの育ち

### 【Aさんの場合】

- 布パンツでの排尿の失敗
  - ・ 羞恥心の芽生え → 泣いて苛つき、担任にしがみついて顔を隠す
  - ・ 自尊心の傷つき → 服や床を濡らすことによる「やってしまった感」  
出来ると思っていたことが出来なかったことへの傷つき
- 疲労感などから余裕がないと、紙パンツを求める

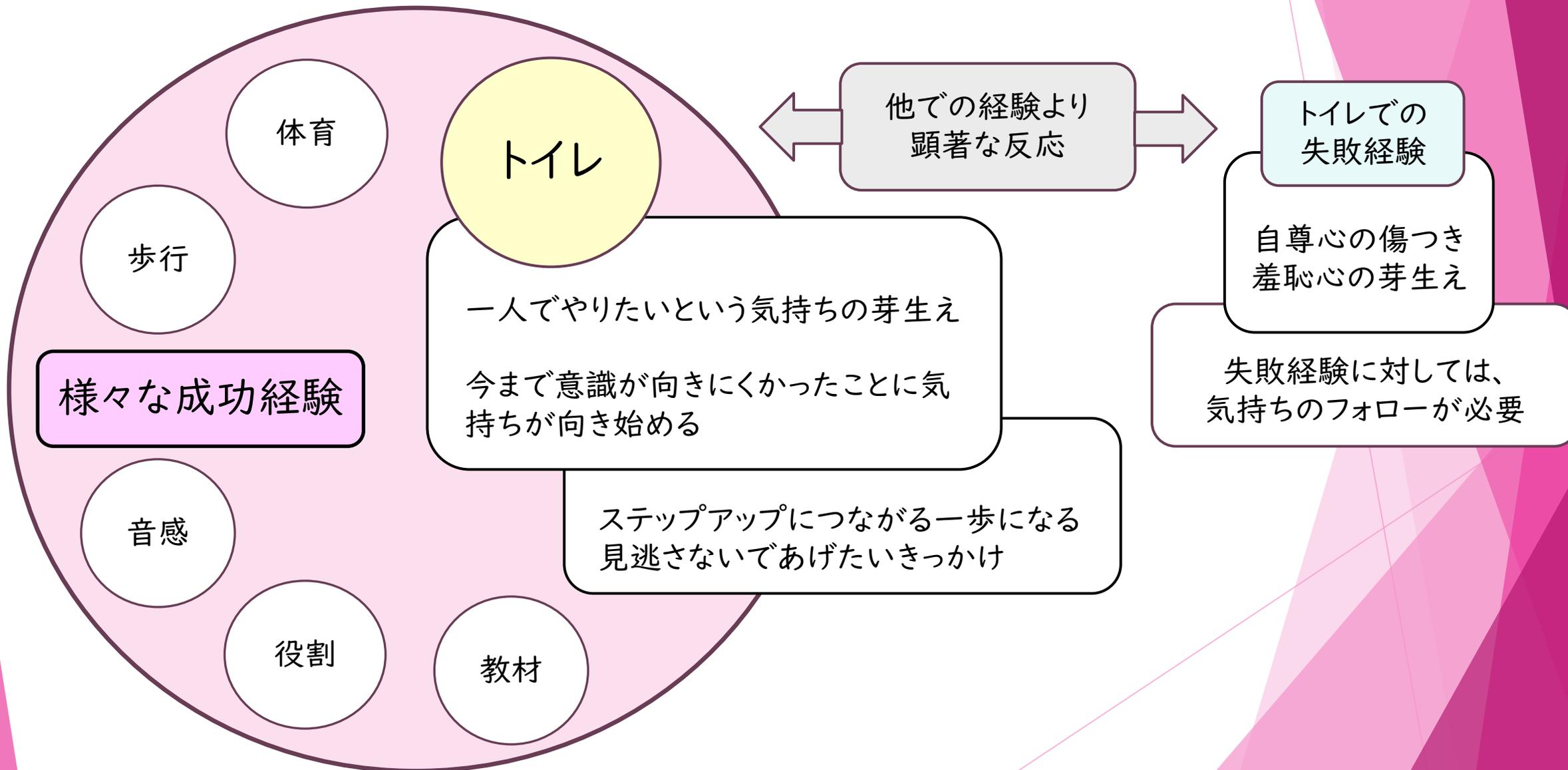
紙パンツ  
「失敗」という捉えにはならないため  
安心感があり、気持ちを緩められる



本人なりの  
気持ちの立て直し

## ⑤ トイレの自立がもたらす気持ちの育ち

【出来た!やりたい!を引き出すために】



## ⑥ 集団意識から生まれる社会性

## ⑥ 集団意識から生まれる社会性

【Aさんの場合】

- お友達への意識から生まれる行動

体育で始めた鉄棒はお友達の  
を見てたから出来るかも

お友達がやってる教材なんだろう？  
ちょっとやってみよう！

クラスに新しいお友達が入ると、  
ちょっとジェラシーかも

グループの動きを手掛かりに動く、  
お友達の取り組みを手本にする

まだ直接的にクラスのお友  
達と関わることは稀だが、担  
任(大人)以外の、お友達へ  
の意識が芽生え始めている

## ⑥ 集団意識から生まれる社会性

【出来た!やりたい!を引き出すために】

お友達が存在

- 集団が居心地の良さとなる
  - 自分もやってみよう → 楽しいことはもちろん、苦手なことも一歩踏み出せる
  - 対抗心からの意欲が、出来ることを増やす(ライバル心)
    - 切磋琢磨しながら出来ることが増える
  - 手助けが必要なお友達を助けようとする
    - 出来ることが増えることによって、気持ちに余裕が生まれ、他者に目を向ける
- ➡ お友達同士の自由な過ごしの中で見られる
- 担任にとって次のステップのヒントであったり、足掛かりになる

# おわりに・・・

Aさんは・・・

毎週末の面会で一緒に過ごす時間が大きな気持ちの満たしになっている

担任は・・・

できればご家族にお子さんの成長やプラスの側面をたくさん伝えていきたい

ご家族は・・・

話で聞く姿と、自分たちの目の前の姿に差があると、  
それを実感しづらいことも・・・

- \* 「今、ここ」にある、お子さんへの支援の意図を、きちんと伝える  
→ ありのままのお子さんの姿を受け止めてもらう

大事なお子さんを託してくださっているご家族が、心穏やかにお子さんと過ごせるように。  
その時間は、お子さんの気持ちや意欲、活力といった、頑張りを支えてくれる必要不可欠なもの。